

家庭教育通信

小学校低学年期のこどもたち1

令和2年5月11日発行

「学校に行きたくない」と言われたら…

もし「学校に行きたくない」と言われたら…
小学校生活のスタートにあたって親として心がけることは？

こどもの声を聴く

まず大切にしたいのは、こどもの思いを慌てずゆったり聴き取ることです。

「どうして行きたくないの？」と親がびっくりして心配そうな顔で詰問口調になるのはNGです。「私もそんなことあったな」ぐらいの気持ちで、何が嫌なのかを共感的に探りましょう。

「幼稚園のほうが遊べて良かった」「先生の声が大きくてこわい」など、入学当初のお困りごとは、言葉にすればかわいいものです。一方で、言葉にならないモヤモヤした心身の疲れがあるのかもしれない。

「行きたくない」と言われたら「そうか、そうなんだね」と否定せずまずは受け止め、少し落ち着いて、心がほぐれたら「行きたくなるにはどうしたらいいかな？」と、お困りごとの解決方法をいっしょに考える姿勢を見せることも効果があります。

担任の先生に聞く

学校に行きたくない理由がはっきりしなくても、担任の先生には家庭でのこどもの状況を、躊躇せず冷静に事実として伝えるほうが良いです。

先生はプロとして学校でのこども達の様子を毎日注意深く見ています。家庭での様子を話すことで、先生のもつこども理解の質を深めるだけでなく、授業がより良く進むことにもつながるのです。

そして親にとっても、我が子の学校での様子を先生から教えてもらうことによって、心配事に新しい光が当たって見えてくるかもしれません。

「忙しい先生にこんなことを相談していいのだろうか」と迷う親御さんも多いと聞きますが、遠慮は禁物です

こどもを健全に育てていく仲間として、親と教師が協力関係を結んで行くことは、充実した学校生活のために、とても大事なことなのです。

もし担任の先生に聞きにくい場合は、保健室の養護教諭やスクールカウンセラーもいます。相談窓口を気軽に活用してくださいね。

地域教育課社会教育担当
Tel (3647) 9676